

聖母被昇天をお祝いたします！

ロシアがウクライナに侵攻したというニュースを耳にしたとき、まさかこの世紀に、日本が体験したあの悲惨な戦争が実際に行われるとは、と驚いたものです。爆撃を受けて破壊されたビルや荒廃した街を見たとき、77年前の日本が体験した戦争も、あのように世界に伝えられたのだろうかと思いました。武器を持たない人を殺害し、人々の生活を破壊し、幼い子どもたちの心に恐怖を与え、その後いったい何が残るのでしょうか。ヨハネ・パウロ2世のことばをもって祈ります。「神よ、わたしの声を聞いてください。わたしたちがいつも憎しみには愛、不正には正義への全き献身、貧困には自分を分かち合い、戦争には平和をもってこたえることができるよう、英知と勇気をお与えください。」



酒井俊弘司教（大阪大司教区補佐司教）SIGNIS JAPAN顧問司教就任

2022年6月17日より

シグニスジャパン顧問司祭に、パウロ酒井俊弘司教様が就任されました。酒井司教は、2018年2月に大阪大司教区補佐司教に任命、司教叙階され、2019年11月よりカトリック中央協議会広報担当に就任されました。シグニスジャパンでは、今年2月にインターネットセミナーでの講演をお願いし、広報の大切さ、司教様の思いを語っていただきましたが、この6月に正式に顧問司教就任をお願いしましたところ、ご快諾くださいましたのでご報告いたします。



これまで顧問司教として活動を見守ってくださった菊地功大司教様には、心より感謝申し上げます。

酒井俊弘司教、そしてシグニスの日々の活動を支えてくださる晴佐久昌英神父（顧問司祭）と共に、より積極的に、私たちの「平和の文化のためのメディア」を日本全国、そして海外へ発信していきたいと思っております。

ZOOM 勉強会 第2弾

千葉偉才也さんに伺う

「メディア・リテラシーの基本」



2/26の松本准平監督の「福音的な映画とは何か」に続く第2弾として、3/28にリテラシー・ラボ代表理事の千葉偉才也さんに、メディア・リテラシーの基本についてZOOMでお話しいただきました。

スライドを使ってまずその歴史と市民がメディアを学ぶ意味をご説明くださり、メディア・リテラシーの定義の変遷から、最新の日本の定義として「民主主義社会におけるメディアの機能を理解（し）…あらゆる形態のメディアメッセージへアクセスし、批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力」（坂本旬 2019）を紹介され、UNESCOによる定義にも触れられた。現在フェイクニュースが氾濫し、偽情報を見分けることが困難だが、フェイクニュース対応の5つのステップ（欧州議会）として、①発信元をチェック、②著者をチェック、③参照をチェック、④共有する前に考える、⑤デマ撲滅運動への参加、を挙げられた。

次に、オーストラリアでは移民の子どもたちの教育の一環として映像制作を通じたメディア・リテラシー教育へ取り組み、成果を上げていることに触れ、2015年からこのオーストラリアをモデルにした映像教育をフクシマ原発事故で避難の福島県広野町の子どもたちに対して実施した経験を話された。そして「いいな広野わが町発見」映像教育プロジェクトから「愛しのアイアイ」（2018）を鑑賞した。東京都でも複数地域で映像教育プロジェクトを実施中で、その中で、外国にルーツを持つダブルの若者の悩みと明るく元気に生きる姿を自分たちで撮ったビデオ「All mixed up」（2020）を鑑賞した。とても素直なこの若者二人を応援したくなります。

最後に多文化共生社会における市民の育成に取り組みされるご自身の思いを語られました。「メディアを学ぶことは多様かつ複雑な人間・社会を理解し、自身の中で思考すること。」「責任ある地球市民として身につけるべき能力」「多様で豊かな異文化間対話、多文化共生による社会形成が進み、より魅力的な社会に近づける。」

千葉さんが、どういう思いでどういう活動をしているのか、なぜ若い人と一緒に映像制作に力を入れているのか、その理由と背景がよく分かるお話でした。リテラシーというと単に識字率を意味することが多いですが、メディアがついたメディア・リテラシーの意味は全く能動的・具体的だと、その重要性と力に、ハッとした一時でした。
 （事務局 町田雅昭）

シグニス アジア Webinar 報告

アジア会議(SAA)は 2020 から 3 年連続で Zoom 開催となりました。7/12、13 前半がウェビナーによる勉強会、13 後半がビジネスデー。7/14 は役員選挙。勉強会ではフランシスコ教皇の「心の耳で聴く」をテーマに、タイの Dr. Peter Monthienvichienchai が基調講演をし、その後各国からの発表がありました。

アジアの若者の声では、フィリピン、インド、日本から発表。一番嬉しかったのは、日本の若者、上智大学 アルンデソーザ助教の下で研究中の大学院生山本夏希さんが発表してくれたことです。山本さんに感想をお寄せいただきました。

SIGNIS ASIA WEBINAR

“LISTENING WITH THE EAR OF THE HEART”に参加して

山本夏希



山本夏希さん

2022 年 7 月 12、13 日に開催されたシグニス・アジアのウェビナーにおいて、“Do people listen to us? Voices of Young people”というテーマで、日本の青年を代表して発表した。今回のウェビナーへの参加を通して、自己や他者、そして神との関係を見つめ直せたとともに、日本における宣教のあり方、そして教皇フランシスコの言葉の魅力に改めて気付くことができた。また、日本だけでなく、アジア、そして世界の青年と分かち合い、多様な声に耳を傾けることは、信仰への励ましになった。現実世界では、私たちは異なる国籍と言語を持ち、境界があるにもかかわらず、信仰の世界ではそれらを超越して、皆がイエスに属していることを実感した。これも、互いに声を出し、それに耳を傾け、声を聴いたからこそ、私たちは出逢い、知り合い、つながり合うことができたのであると思う。日々の生活においても、信仰生活においても、“LISTENING WITH THE EAR OF THE HEART”を実践していきたいと思った。



シグニス世界大会 2022 ソウルに隣国として参加したい



シグニスの世界大会 (SWC) は 4 年に一度、前回は 2017 年 6 月カナダのケベックでした。その時に韓国のシグニスが、今回はソウルでと積極的な PR をして、2021 年ソウル開催が決まり、韓国は猛烈に準備を開始しました。テーマは「デジタル世界における平和」。日本はこの機会に韓国との関係を強化したい、是非協力したいと韓国シグニスに申し入れをしました。具体的には、シグニスメンバーを中心に SWC 準備会を組織し、毎月 1 回の ZOOM ミーティングを行い、過去の歴史の勉強もした上で、明るい未来を望む形での日本ブース設置の模索をはじめました。その後、新型コロナ・パンデミックが発生し、1 年延期が決まり、それが、全面オンライン、リアル+バーチャルのデュアル開催、リアル中心+バーチャルと変わっていき、それに伴いプログラムが何回も修正されました。

韓国では近年急速に広まっているメタバースを取り入れたいと、各国、各団体、各デスクにメタバース用のデータ/ファイルの作成を要請しました。我々も不慣れな中で現物展示ブースからバーチャル展示ブースへの切り替えに混乱しつつも、何とかポスター、スライド、ビデオを準備し、かつプラスアルファとして、シグニスジャパンのウェブサイト内に専用サイトを設けました。

<https://signis-japan.org/swc2022/>

メニューは、①About Us (活動記録)、②Leaflet (「日本の教会」日英韓)、③Kirishitan Map (史跡・巡礼地や、ザビエル、ペトロ岐部、おたあジュリアの足跡)、④Books & DVDs (英語・韓国語等に翻訳された書籍ほかの紹介)、⑤Films (日本カトリック映画賞)、⑥Links (関連予告編ビデオほか) を掲載しました。どうぞ覗いてみてください。

今回の SWC2022 には 30 ヶ国 89 人がリアル参加の予定です。日本からは今年 6 月からシグニスジャパンの顧問司教になってくださった酒井俊弘司教様、土屋至会長、町田雅昭事務局長の 3 名が参加します。ビザ取得で難航し、リアル参加は奇跡がないと無理とマリア様をお願いをしました。土壇場で韓国から一時的に日本人にもビザなし渡航を認めるとの通達がでて、参加が叶いました。マリア様へお礼のお祈りをします。韓国側も日本から司教様が来てくれると大喜びです。

(事務局 町田雅昭)

参加の方法

★どなたでも、オンラインで参加できます！
下記をクリックして、お名前とメールアドレスを入力するだけで登録完了。視聴 URL が送られてきます。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_D6zrK26ZQPuJtk3DagdJtA

映画チームから おすすめ映画

『マイスマールランド』

川和田恵真 監督/2022年/
日本・フランス合作/114分

『ゆめパのじかん』

重江良樹 監督/2022年/日本/90分

「ゆめパ、って何？川崎市が運営する子どもたちの遊び場、夢パークのことです。泥遊び、虫とり、池にジャンプ、米作り、木工などなど。ここには禁止事項はありません。やりたいことをやりたい時にやる。大人は口を出さない。これがルールです。学校に行けない子、障害を持った子の居場所にもなっています。映画『さとにきたらええやん』(2015年)で子どもたちの描き方に卓越した手腕を見せてくれた重江良樹監督。この作品でも子どもたちに寄り添い、かれらの輝く表情を見事にとらえています。サワという少女が木工に興味を持ち、木工ボランティアのおじいさんと共に作業をする中で成長していく姿に感動しました。ひとりひとりに与えられている喜びの「種」。それを見つけた子どもの顔は輝きます。映画の最後にこんな文字が出ます。「たくさん悩んで遊んだら、みんなきらきら光り出す」子どもたちの未来に「希望」が見えました。



川崎市子ども夢パーク (神奈川県川崎市高津区)

夢パークは子どものこんな居場所です

- ・ありのままの自分でいられる場
- ・多様に育ち、学ぶ子どもの居場所
- ・自分の責任で自由に遊ぶ場
- ・つくりつづけていく場
- ・子どもたちが動かしていける場

(夢パーク web サイトより)



埼玉県南部の川口市・蕨市には、トルコ国籍のクルド人約2000人が住んでいると考えられています。クルド人は「国を持たない最大の民族」と言われ、中東地域に2000万～3000万人が暮らしていると推測されます。*中略*

日本に来たクルド人の多くは難民申請をしていますが、日本政府はいまだに一人も難民認定していません。

(任意団体 在日クルド人と共に
web サイトより)

(注) 8月にトルコ国籍のクルド人男性が初めて難民認定されました。

映画公式サイト <http://yumepa-no-jikan.com/#modal>

映画公式サイト <https://mysmallland.jp/>

賛助会員募集

と一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN /

info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至